

研究所だより

第471号
2024年 5月 8日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“ 卯の花の 匂う垣根に 時鳥（ホトトギス） 早も来鳴きて
忍音（しのびね） もらす 夏は来ぬ
さみだれの そそぐ山田に 早乙女が 裳裾（もすそ） ぬらして
玉苗（たまなえ） 植うる 夏は来ぬ ”
『夏は来ぬ』 1896（明治29）年 日本の童謡・唱歌



～新緑がまぶしい季節となりました！～

暦の上では「立夏」（5日）が過ぎました。野山の新緑も目立ち始め、少しずつ夏を感じさせてくれる頃となりました。

各校では校長先生のリーダーシップのもと、学校目標・研究主題の具現化に向けて“チーム学校”で取り組んでいることと思います。また、春運動会実施の小学校では、運動会の目標を明確にし、目標達成のために時間を有効に活用しながら、子どもたちも先生も一生懸命に取り組んでいます。

「指導と評価」2024. 5月号より

発達特性のある思春期児童へのほめ方・かかわり方

しらいし きょうこ
白石 京子
〔日本医科学大学校講師・公認心理師〕
〔学校心理士・臨床発達心理士SV〕

1 発達特性のある児童の思春期

発達特性のある子どもは、思春期になり、他者との違いを感じるようになると、他者からの評価や進路の課題に直面し、強くストレスを感じる。また、自尊感情の揺らぎや、周囲の無理解等により、2次的問題（不登校・非行・反抗挑戦性障害・素行障害・睡眠困難・うつ病等）に陥る場合も少なくない。さらに、発達特性からくる問題（焦点の切り替えの難しさや、衝動的な反応等）や、思春期の異性への興味関心の高まりからくる課題も生じ、多面的な支援が求められる。

〈架空事例〉

ADHD・LDの診断がある中学生男児Aは、学習に苦手感があるが、運動神経はよく、クラスの人気者であった。しかし中3に進級する頃から、家庭不和のため成績が下がり、生活リズムも崩れ、睡眠・栄養状態も悪くなった。衝動性や攻撃性が高くなり、友人や兄弟との喧嘩が増え、担任からの注意も多くなり、不登校傾向となった。

ある日、久しぶりに登校し、英単語の書き取りをしていたところ、担任が「おっ、きれいに書けているね。がんばっているね」と大げさにほめた。すると、「そういうのはやめてください」と怒り、椅子をけって机を壊し、教室を出ていった。その後、ゲームセンターで傷害事件を起こし、補導された。あとで聞くと「皆の前で、大げさに言われるのが恥ずかしかった」「先生の言葉がいやだった」「馬鹿にされた」と述べた。

つまりAは発達特性により、具体的な言葉やほめられた内容から、ほめてくれた相手との関係性へと注意や焦点を切り替えることがむずかしく、担任の励ましを「からかい」や「皮肉」と誤解したのである。さらに、家庭不和や生活リズムの乱れと相まって、自暴自棄になり、傷害事件に発展してしまったわけである。担任の方も、ただ励ますつもりだったが、このような結果となり、指導に自信をなくしてしまった。

以下に、関係学と学校心理学の2つの視点から、Aの課題と支援を考えてみよう。

2 関係学の視点

関係学とは、松村康平が創始した、人間を取り巻く状況を「自己・人（自己を取り巻く人々）・物（自己を取り巻く環境等）のかかわり」という観点から分析する人間関係の理論学である。この「自己・人・物のかかわり」は、内在、内接、接在、外接、外在の5つのかかわりに分類される（図参照）。まず、①内在は関係に入り込む状況であり、②内接は関係を内から担っている状況であり、③接在は外と内を統合的に担っている状況、④外接は関係を外から担う状況、⑤外在は関係から隔離している状況である（佐藤、1991）。これらのうち、接在は自己も人も物も共に発展する理想的な状況とされる。*佐藤啓子『家庭における人間形成』高文堂出版社、1991年。

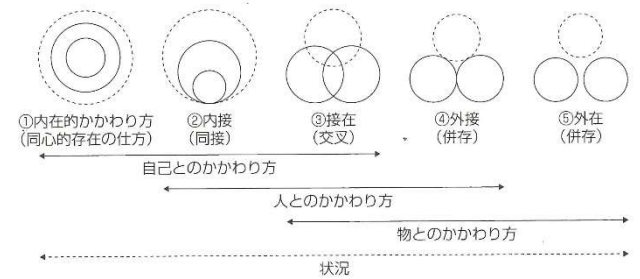


図 関係状況における自己、人、物（佐藤啓子（1991）家庭における人間形成P43-P113）

本事例の場合、「自己」とはA、「人」とは担任やクラスメート、家族等、「物」とは学校や家庭環境等を指している。またAからすると担任との関係は、心を閉ざしてかかわらない①内在で、担任からすると、児童との関係は表面的にかかわっている④外接であるため、両者のコミュニケーションが十分でなかった。これに対し、担任がAとかかわり、配慮したほめ言葉をかけ続ければ、両者の関係は②内接に発展する可能性が芽生える。さらにAの想いを理解し、互いが分かり合える関係になれば、自己も人も物も共に伸びる③接在状況が生まれると考えられる。

つまり、関係学においては、支援者は現在、子どもとどのような関係にあるか、将来どのような関係を目指すのか理解したうえで、本人の気づきを大切に、本人のやりたいこと・求めていることを一緒に考え、共に育つことを目指している。*関係学会・関係学ハンドブック編集委員会編『関係学ハンドブック』関係学研究所、1994年。

3 学校心理学の視点

学校心理学は、子どもと教師のために存在するきわめて実践的な学問（水野・家近・石隈、2018）。具体的には、援助チームシート（石隈・田村、2003）等を活用して、子ども、援助者、環境の観点から、子どもの学校生活（学習面・心理社会面・進路面・健康面）についてアセスメントし、その結果に基づいて具体的な援助を行う。*水野治久・家近早苗・石隈利紀『チーム学校での効果的な援助』ナカニシヤ出版、2018年。

本事例の場合、学習面では、英語以外も苦戦しており、学習の遅れが自己イメージや学習意欲に影響している可能性が高い。また心理・社会面では、家庭内の人間関係による葛藤（忠誠葛藤等）を抱き、不安が高まっていた。友達関係や兄弟関係も悪化していた。進路面については明確なイメージがなく、相談する人や場もなかった。健康面では生活リズムや睡眠状態・栄養状態がよくなかった。

これらのアセスメント結果が、関係者間で共有できていれば、いつ・誰が・何をどう支援するかという支援の方向性が明らかになり、日常的なコミュニケーションの工夫や声かけにつながった可能性がある。ほめるときには大げさにほめるのではなく、本人の価値観や感情にそってほめる。また、自分が適切な行動をとれていることに気づかせるなどの援助案が導けたかもしれない。

なお、教師一人での援助には限界があり、チーム援助が望ましい。そのためのチーム体制づくりには、学校独自の課題、人的資源・組織資源、地域の特徴などを、援助資源チェックシート（石隈・田村、2003）等を活用して幅広くアセスメントする必要がある。

一人一人の児童や教師の声をていねいに聞き、支援につなげることが学校心理学の考え方である。

*石隈利紀・田村節子『チーム援助入門 学校心理学・実践編』図書文化、2003年。

まとめ

発達特性のある子どもはこだわりや独自の物の見方を持つことが多いので、子どものチャンネルに合わせてコミュニケーション（ほめることも含まれる）をとることが重要である。本人とチャンネルが合えば、支援者の言うことが励みやほめ言葉として徐々に受け入れられるであろう。

様々な方法論を統合し、子どもの置かれている状況や背景を理解し、聞こえない言葉を聴き、その意味の深さを慮る力を培うことが求められるのである。

1. 第1回教研推進委員会

4月11日（木）に第1回教研推進委員会を開催し、今年度の役員選出、教研活動、予算、研究集録「清水の教育」等について協議・確認をしました。

(1) 教研推進委員

氏名	所属	役職	氏名	所属	役職
佐竹 正史	校長会（清水小）	委員長	町田 憲彦	清水中学校	委員
西村 佳江	足摺岬小学校	委員	宮上 美智子	教育委員会	事務局
川村 碧人	清水小学校	副委員長	勝間 康人	教育研究所	事務局
岡 佐保	三崎小学校	委員	渡会 紀和	教育研究所	事務局
福留 未佐	下川口小学校	委員			

(2) 教研の日程

- ①各部会・研究協力校・研究会等代表者会：開催しない。（資料の配布とする）
- ②一日教研：8月7日（水）〔午前：講演 午後：部会〕
- ③半日教研：11月6日（水）公開授業、講師招聘、情報交換等
- ④総括教研：各部会で計画する。

(3) 2024年度補助事業（①教育研究推進事業・②教育研究活動事業）

- ①教育研究推進事業（土佐清水市教育研究集会・市教研関係）
- ②教育研究活動事業（研究協力校関係）


(4) 研究集録「清水の教育」について


- ・原稿はデータ化して研究所へ提出 *原稿提出締切（1月末）
- ・年度末に、各校へ研究集録「清水の教育」（ファイル綴じ）1冊、CD1枚を配布する。

＝第74次土佐清水市教育研究集会・組織教研＝


4月17日（水）清水中学校を会場に「第74次土佐清水市教育研究集会・組織教研」が開催されました。今年度は、8部会68名でスタートしました。各部会では、組織作り・研究テーマ・年間計画・予算等について熱心な話し合いが行われました。


各部会の部長、部員数、研究テーマ、計画等を紹介します。


①国語部会	『「読む力」「書く力」を高める授業方法の研究』	
西村 佳江	8月7日 公開授業指導案検討、各学年教材研究、情報共有	
(12名)	11月6日 研究授業（清水中：木俵 一乃）、情報共有	
	1月10日 年間総括	


②社会科部会	『社会科の指導における探究学習の研究』	
平林 也奈	8月7日 フィールドワーク、観光ボランティアガイド招聘、副読本の活用、教材研究	
(8名)	11月6日 研究授業（足摺岬小：北代 可也）、情報交換	
	1月9日 年間総括	


*（部員数：コーディネーター1名含む）


③算数・数学会	『楽しく分かる 深め合う 算数・数学授業の創造』	
永野 美華子	8月7日 問題提起（三崎小）、指導案検討	
(7名)	講師招聘：「効果的なICTの活用について」	
	11月6日 研究授業（三崎小：調整中）、情報交換 *年間総括 「清水の教育」原稿について（メール）	

④理科部会	『わかる 楽しい授業づくり』	
奥谷 博史	8月7日 ジオフィールドワーク、ジオ学習の教材化	
(8名)	10月上旬 事前学習指導案事前検討、情報交換	
	11月6日 研究授業（清水小：池本 晃翔） 1月中旬 年間総括	

⑤情報教育部会	『ICT教育の推進』	
増山 賢太	8月7日 講師招聘（ICT活用について）、実践共有	
(13名)	11月6日 研究授業（調整中） 実践交流	
	1月中旬 年間総括	

⑥教育相談部会	『人間関係を考える 一見る・聴く・つなぐー』	
東 眞由美	8月7日 講師招聘（西本先生）	
(11名)	子どもの見方、特性のある生徒への関わり方、情報交換	
	11月6日 研究授業（清水中：小橋 歩）、情報交換 1月10日 年間総括、「清水の教育」原稿検討、情報交換	

⑦養護部会	『地域に根ざした健康教育～学校保健委員会のあり方』	
萩原 朋子	5月28日 研修内容の詳細、昨年度までの作成物等の確認	
(4名)	8月7日 一日教研（資料や教材作成）	
	10月18日 部会研修（生活習慣病予防検診について、情報交換）	
	11月6日 半日教研（各校の作成物・実践交流）	
	12月20日 「清水の教育」作成に向けたまとめ	
	1月24日 総括教研（学校保健委員会の反省と次年度に向けて）	

⑧事務部会	『「学校事務をふかめる」組織の一員としてできる学校事務を考える』	
中村 盛二	8月7日 講師招聘（小松SC）、子どもとの関わり方、メンタルヘルスについて	
(6名)	11月6日 学校事務冊子を読んでのプレゼン、情報交換	
	1月10日 年間総括、「清水の教育」原稿検討	



〔芥川教育長挨拶〕

〔佐竹委員長挨拶〕

久しぶりの学校紹介

〔足摺岬小・清水小・三崎小・下川口小・清水中〕